

わたし

七月三〇日の午後九時半頃のことだった。

時間は $\frac{1}{2}$ 秒程度だったろう。

二度と逢は見えまいとは思ひながら、いた

んじやないかともいう。

云々の方が信頼度は高いようだ。

しというところだろうか。

うだ。

あの実に可愛いいたち君が、そういう不

か
つ
た。

つたのだらうか。

皆からいたちがたくさんいたという。またあ

い自慢話となるにちがいない。

登壇をねがった。ひきつゞきよろしく